

## 令和2年度1年生児童（25人学級導入前）の学校生活等意識調査及び学力調査の分析結果概要（速報）

※現段階では暫定的であり、今後一部結果等がかわることがあります。

### （1） 非認知能力の側面（学校生活等意識調査より）

→ ほとんどの質問項目において、肯定的な回答が多かった。

（多くの項目は95%以上）

次の質問項目は、肯定的回答が少なかった。

質問1 自分の良いところを言えますか（78.5%）

質問2 先生は自分の良いところをほめてくれますか（89.9%）

質問3 困ったときに先生や友達に言えますか（85.9%）

質問18 自分の考えを発表していますか（83.7%）

### （2） 学力の側面（学力調査（算数）より）

→ ほとんどの設問において、正答率が高かった。（多くの設問の正答率は90～98%）

次の設問は、正答率が低かった。

設問1 3-1の式にあう絵を選ぶ（79.7%）

設問5 時計の図が表す時こくを書く（89.2%）

設問8 10-4+2の式になるような問題をつくる（73.5%）

### （3） 【相関】学校生活等意識調査の肯定的回答に、学力調査の正答数による違いがあるか〔意識調査と学力調査の相関〕

→ ほとんどの質問項目において、正答数による差は見られなかった。

次の質問項目は、正答数が少ない児童ほど否定的回答をしていた。

質問2 先生は自分の良いところをほめてくれますか

質問6 難しいことでも最後までやりきることができますか

### （4） 【相関】学力調査の正答数が多い児童は、学校生活等意識調査の各質問項目にどのように回答しているか

→ 正答数が多い児童の多くは、①（いつも）と回答していた。

ただし、次の質問項目は、②（ときどき）と回答する児童が多かった。

質問1 自分の良いところを言えますか

質問2 先生は自分の良いところをほめてくれますか

質問18 自分の考えを発表していますか

(5) 【**相関**】学力調査の各設問の解答状況によって、学校生活等意識調査の質問項目への回答に違いがあるか

→ 正答した児童の多くは、①（いつも）と回答していた。

ただし、次の質問項目は、①（いつも）と②（ときどき）の回答が拮抗していた。



質問1 自分の良いところを言えますか

質問18 自分の考えを発表していますか

→ 次の質問項目は、誤答した児童に③（あまり）や④（まったく）の回答が比較的多かった。



質問6 難しいことでも最後までやりることができますか